

2004年11月29日

関西地方へ紅葉狩りに（その3：湖東三山と永源寺）

18日（木） 18日 10：20 ホテル発の湖東三山と永源寺めぐりの定期観光バスに乗車、彦根駅などいくつかのピックアップポイントを経由して西明寺へ山門前の駐車場で下車、山門を入るとすぐ名神高速をまたぐかたちでなだらかな坂道が続く、左に名勝庭園（浄土を表わした池泉回遊式庭園、不断桜が美しい右の写真）、右に納経所と紅葉を眺めながら登り、右に観音像を右に見ながら二天門までの急な石段を登ると正面に本堂そして右手に三重塔がある。本堂と三重塔は鎌倉時代に建てられたもので国宝に指定されている。小雨の中にもかかわらず沢山のカメラマン（プロもアマも混在）が参道のいたるところで紅葉を撮影していた。



上左の写真は参道の紅葉、上右の写真は国宝の三重塔。内部の仏像壁画は雨天時には開放していないとのことであったが、小雨であったのでオープンしていた。本堂内には秘仏本尊薬師如来（重文）をはじめ数多くの文化財が安置されて、中でも頭の上に十二支の動物の顔を載せた十二神将（県文）はユーモラスである。

バスは 307 号線を南に進み二番目の訪問先、金剛輪寺へ。バスのガイドさんから湖東三山のうち参道が最も長いので頑張ってくださいとのアナウンスがあった。実際、参道の両側に色とりどりのよだれかけと風車で飾った沢山の地藏さん（千体地藏）があり、本堂まであと 300 米、200 米という表示に励まされ、最後の急な石段を登ると大きなわらじのさがる二天門を経て正面に国宝の本堂



(上左の写真)があり、左上方に三重塔(待龍塔)があった(上右の写真)。本堂周辺の真っ赤なもみじは血染めのもみじとして有名である。本堂には秘仏本尊聖観音さまをはじめ、阿弥陀如来像、十一面観音像など十体の重要文化財指定の仏像が安置されている。

右の写真は参道にある名勝庭園内のもみじである。バスに戻り国民宿舎金剛輪寺荘へ、30分間の短い昼食を済ませ、次の百済寺へ、途中、宇會川ダム(ロックフィルダム)が見えるはずの場所を通過したが雨のため見通しが悪く見えなかった。百済寺の駐車場は庭園本坊の近くにありそこか



ら表門を入れて左に弥勒半跏石像を見ながら急な石段を登り仁王門へ。本堂には聖徳太子像(左の写真)がある。この寺は聖徳太子が百済国からの渡来僧のために建立したと言う。ご本尊は十一面観世音菩薩(藤原時代)である。参道に戻り、元の庭園本坊へ行った。これは池泉

廻遊・鑑賞式庭園（右の写真）です。山上眺望が見事で、晴天の日には湖東平野と琵琶湖をかすめて真西の遠方 55 km先に、比叡山を遠望できると言うが、残念ながら雨で眺めることは出来なかった。駐車場に戻り、今日最後の目的地永源寺へ向かった。途中、百済寺の表参道の入口の赤門の前を通過した。本来であればここから入り五ノ谷川に架かる極楽橋を渡って参拝するのが正式なのではないかと思う。



永源寺には入口付近に駐車場がなく、下車するとバスは一時別な場所に移動して待機し、集合時間に同じ場所に戻ってきた。入口から紅葉を眺めながら約 120 段の石段を登ると総門、更に山門を通過して、鐘楼の脇を進み、本堂へ行った。その奥は禅僧の修業道場のようであった。



上左の写真は参道の右下を流れる愛知川（音無川）、上右の写真は参道のもみじ、左の写真も同じくもみじ。境内に約 3000 本あると言われるもみじは壮観であった。晴天であったらもっと素晴らしかったのではと思いながら今日の日程を終了した。バスは一部の乗客を八日市インターチェンジで降ろし、名神高速を彦根インターチェンジまで走り、地方道で米原駅へ進みバス旅行

を終了した。